

## 松戸市協働のまちづくり協議会（第1回）議事概要

- 《日 時》 令和4年5月21日（土）10時～16時  
《場 所》 議会棟3階 第2会議室、特別委員会室  
《委 員》 犬塚 裕雅 会長、杉浦 利彦 副会長、牧野 昌子 委員、  
坂野 喜隆 委員（午前中のみ出席）、神谷 明宏 委員、  
佐藤 秀樹 委員、齊藤 典子委員、上野 真一 委員  
（欠席）小川 早苗 委員  
《傍聴者》 4人

### 1 開 会

※欠席者報告・委員会定数確認、配布資料確認、傍聴許可確認

### 2 協働のまちづくり協議会 会長挨拶

### 3 事務局の異動報告

### 4 議 題

#### （1）令和4年度年間スケジュールについて

- ・事務局より令和4年度の年間スケジュールについて説明した。

#### （2）協働事業一次選考について

- ・事務局より、令和5年度実施分 協働事業の一次選考について、以下の事項を説明した。
  - 提案の提出期間は5月2日月曜日から7月29日金曜日まで。行政指定テーマがなかったため、市民提案部門のみの募集とする。
  - 一次審査は「事業の有効性」と「協働の必要性」を重視して審査してほしい。
  - 次回8月の第2回協議会にて、協働事業の一次選考を行っていただく。
- ・協働事業第一次選考（第2回協働のまちづくり協議会）を非公開で行うことを決定した。

#### （3）事業成果報告会について

- ・事務局より事業成果報告会について、流れを説明した。

#### (4) 事業成果報告会

①事業名：全ての命を大切にして、人との繋がりを考え、環境から優しい街づくりをする猫相談会事業（ステップアップ助成）

団体名：松戸地域猫スタートサポート

委員：毎月の相談会、人数が多いわけではないが地域に根差していると感じた。地域包括支援センターとの関係だと、多頭飼育が話題になっているが、どんな状況だったか。

団体：多くて5名ぐらいのメンバーなので、市内で活動をしている人に声を掛けて大勢で現場に行って保護して、里親を探す形で解決している。

委員：多頭飼育はあったということか。

団体：たくさんあった。

委員：猫以外にも犬の相談もあったようだが、どのようにしているか。今後猫以外にも広げるか、団体の方向性は。

団体：松戸市で譲渡会ができれば良いが、施設で動物の許可が出ないので動物愛護センターのHPを紹介している。チラシをたくさん撒きたいが、予算との相談。

委員：電話相談が多くなっているとのことだが、チラシの電話番号を見て掛けてくるのか、市を経由しているのか。増加する電話相談への体制は。

団体：相談のルートはどちらもある。相談会まで待つて手術というと生まれてしまうということで、その前に電話相談で対応して手術をしたケースも多々ある。市民に周知するにはポスティングやチラシの折り込みに予算をもっと割きたいと考えている。

②事業名：料理を通じた父親の意識改革事業（協働事業）

団体名：MAISON IZARRA Oyatsu labo\*T naturel

メゾンイザラおやつラボ\*テ ナチュレル

担当課：男女共同参画課

委員：リピーターが多いのか。また、食材費だけでも実費負担とすることについてどうお考えか。

担当課：リピーターも一部いた。父親は参加のハードルを下げるために現在は無料としている。今後独立して事業を進めるにあたって、参加費の検討も必要かと考えている。

委員：協働が終わった時、突然1家族4,000円の参加費になるのか。検討いただければと思う。

- 委員：担当課がこの企画をしたのは何よりも素晴らしい。これまでは行政が国の施策を受けて実施している印象があったが、今回はユニーク。誰が企画したのか。自分が若ければ絶対参加する。料理というと高齢者対象のものはたくさんあるが、父親かつお菓子という視点は行政の視点にない。今後無料で続けてほしいが、目算はあるか。
- 担当課：団体の提案。コロナ禍での料理教室は例があるが、ワークショップを一緒に実施するのが独自だと思う。参加費については検討していきたい。
- 委員：お菓子より料理の方が良いのではと始めの頃に発言したが、結果はお菓子で大成功だったようだ。参加する方は少し意識がある方だと思われるが、活動の内容を全然知らない人に伝える工夫はあるか。
- 担当課：ご意見のとおり。男女共同参画に関心の薄い方への周知は課題で、県を通じて周知している。
- 団体：意識がない方への周知について、男性の多い職場にチラシを配り、届けていきたい。

③事業名：発達障がい・不登校の親の会事業（スタート助成）

団体名：発達障がい児の子育て会 あんだんて

- 委員：参加者の感想をご紹介いただきたい。ピクニックのレクリエーションについても教えていただきたい。
- 団体：こんな会があるのを知らなかった、もっと早く知りたかった、という方が増えた。チラシの効果かなと思う。小学生の親御さんが多く、ママ友に子育ての相談をあまりしないということでニーズがある。レクリエーションは親子で参加すると、他の家族を見て、こういう接し方をすれば良いんだ、と相互作用も生まれていたようだ。
- 委員：チラシの配布先をこれからどのように広げるのか。
- 団体：昨年度は幼稚園と保育園 215 か所に配布した。今年度は小中学校もしくはデイサービス関係に配るか検討中だが、小中学校、デイサービス両方できるかもしれない。
- 委員：当事者ではなく、周りへの周知はどう考えているか。
- 団体：当事者は家庭のことで精一杯という方が多い。自身ではネットで発信しているが、共感してくれる方がいれば何かしら動いていきたい。
- 委員：オンラインは参加者が少ない一方、遠方からの参加というメリットがあるとのことで、ハイブリットも考えているか。また、おしゃべり会の様子について教えてほしい。時間など。

- 団体：講演会はハイブリットで開催した。普段の会については90分～120分の枠で行っているが、話が弾み、大体3時間くらい話している。
- 会長：親御さんは抱え込む方が多いのか。
- 団体：悩んで認めたくないという方よりも、認めた上でどうしようか、という方や夫の理解がある方も意外と多い。逆に全く理解がないケースと両極端な印象。
- 会長：こういった取り組みが他にもあって、選べる選択肢があれば良いなと思った。

④事業名：働くおとなのホッとできる居場所づくり事業（スタート助成）

団体名：まちなす・Labo/Friends

- 委員：専門職とはどのような方がいるのか。
- 団体：主に看護師と、理学療法士。
- 委員：専門職の方がクロスオーバーしていくことが重要だと思う。専門職の方は忙しい中、PRしなければ集まらないのでは。PRはどのようにしているか。
- 団体：ご意見のとおり、自分の中の限界がある。専門職をメインにしたイベントを実施した。ケアマネや訪問看護の看護師などに参加いただき、そこから参加が広がれば良いなと思っている。
- 委員：対象者を明確にして、ニーズを分析してはいかがか。相談というだけでは何を相談して良いか漠然としている。看護師という強みを活かして考えてほしい。また、チラシの配架は保健センター以外にあるか。
- 団体：広報、スタートアップオフィス、また介護保険課の協力もあり、地域包括支援センターなどに配布してもらった。
- 委員：目標に対して参加実績が少なかったのが残念に思う。また、配布したチラシを見ることはできるか。
- 団体：（パワーポイントを指しながら）これですね。対象を専門職とし、参加人数を6名と限定したので一般には配布しておらず、事業所や病院に配布した。
- 会長：仕事をしている中での活動なので、皆さんが息切れしない程度が大切だと思う。皆さんに街中保健室が必要になってしまう。できる範囲でちょっと手伝おう、と広がる形の方が良いかと。息切れしないように続けていただきたい。

⑤事業名：「まつどの介護」プロモーション事業（協働事業）

団体名：特定非営利活動法人 SmileResource

担当課：介護保険課

- 委員：学生の感想は。
- 団体：学校で介護を学んでいる学生から、実習で学べないことを知れて、ますます介護現場の魅力を知ったと。ヘルパーの資格を取って実際にヘルパーステーションで働いている人もいる。両親が介護職だが、どういう仕事か知ることができた、など。
- 委員：動画は文章や写真より伝わり方が違う。見てもらうことが重要になるが、介護保険課のチャンネルに行き着くにはどうすれば。
- 団体：チラシや広報にQRコードを掲載している。ネット上で検索してたどり着くのはまだ。
- 担当課：「松戸市 介護」で検索すると一番上でヒットする訳ではないが、広報等から直接飛んでいただき見つけてもらう形。
- 委員：ホームページから動画に飛べると良いと思う。
- 委員：動画作成における困難だったエピソードと、ボランティアの集め方は。
- 団体：ボランティアについて、自身が介護施設で働いていて学校と繋がりががあるので説明会を行った。困難だったのはコロナで施設に入れなかったこと。少人数で撮影できるものを中心に作成した。

⑥事業名：食のセーフティーネットづくり、生活困窮者と食品ロスの問題解消事業  
(スタート助成)

団体名：まつどフードバンク

- 委員：生活困窮者はどういう形で繋がるのか。チラシを見て自分からコンタクトを取ってくるのか。リピーター率は。今後の展望は。
- 団体：個人情報上の関係上、生活困窮者を特定するのは難しいが、子ども食堂と横のつながりがあるので、子ども食堂を通じてその先にいる生活困窮者を支援している。HPや広報を見て自分から連絡をくれるケースもある。月1回の食糧支援で最大年12回。生活保護の申請が通るまでの間や、慢性的な支援を希望する方などそれぞれ。支援を終えた方についてのレポートはない。今後の展望は、子どもの貧困が増えてきておりフードバンクがまだまだ足りないので、松戸で増やして支援を広げていきたい。
- 会長：入口は寄付で成り立ち、出口は生活困窮者へ届けること。寄付してくれる人に対して、信頼につながる取り組みはあるか。活動報告など。
- 団体：定期的に寄付をもらっているところはあまりない。お金の寄付をもらっているところには年に1回報告書を送っている。

⑦事業名：[生きづらさ・ひきこもり] からだとところに栄養をあたえる場づくり事業  
(スタート事業)

団体名：生きづらわーほりプロジェクト

委員：引きこもりの方を集めるのは大変だと思うが、どうやって。引きこもりの原因は様々だと思うが、当事者が集まることの価値を参加者はどう感じたか。

団体：会の参加者はある程度外出できる方が多い。ロコミでの参加が多かったが、コロナでそれが難しくなっているを感じる。その場に参加するまでのサポートを考えていきたい。参加して楽しんでもらっているようだし、繰り返し参加されるのは来て良かったと感じてもらっていると思う。

委員：表面化しない引きこもりの方に情報が届くようになれば良い。民生委員の会議にチラシを周知できれば良い。

団体：広報にイベント情報を載せたかったが、手が回らなかった。小金原に繋がりがあ  
り、そこから1人イベントに参加があり、地道に広げている。

委員：つたわりミニとは違い、料理を作ってみんなで食べるのは大変だと思うが、様子  
や成果は。

団体：申込制にするとハードルが高いので当日参加だが、何人来るかわからないので準  
備の難しさがある。手を動かしながらだと面と向かうより話しやすかったり、料  
理が話題のきっかけになったりしていると思う。

⑧事業名：いきいき体操事業（スタート助成）

団体名：特定非営利活動法人 アイギス

委員：自分も日本レクリエーション協会でこういう活動を習ってきた。ポイントは継続  
することで、先生をうまくキャッチしたコツは。

団体：コーチは松戸市の他団体でも教えている。

委員：他の活動は。

団体：サロンを行っている。行く場所がない方が来る。認知症の方も来ることもある。

委員：来られた場合どうするのか。

団体：講習を受けているので話を聞き、団地内の方なら一緒にお連れします。

委員：高齢者が増えていくが、どうお考えか。

団体：梨香台団地は見る方全員が高齢者。話し相手がいないことが一番嫌なのでは。根  
気よく聞くということが大事。それがアイギス。サロンをやっているが経営は赤  
字。

委員：体操は団地の方以外も参加可能か。

団体：はい。近隣の方も多い。

委員：アイギスの由来は。  
団体：聖書で女性が持つ盾の名前。

⑨事業名：松戸のイメージ向上のためのコミュニケーション事業（協働事業）

団体名：まつどのこもりかた。編集部

担当課：広報広聴課 シティプロモーション担当室

委員：実際の web サイトを見せていただいた。全部違うモデルさんだが、印象が似通っていると感じる。また、飲食店の食べ物や飲み物の写真で価格をあえて書かない理由は何か。また、掲載したことでお客さんが増えた、客とのコミュニケーションが増えたなどの感想があれば教えてほしい。

団体：似通っている部分についてはこれからの反省で課題と認識しこれからは活かしていきたい。価格については食ベログと差別化を図るため、松戸の魅力を伝えることに重きをおき、モデルを使って料理や店の雰囲気などを伝えられればと考えている。

取り上げた店には後日伺うこともあるが、掲載したから増えたという話はまだ聞いていない。

ただ、フォロワーが 1,000 人いるので、1,000 人規模のところで紹介してもらえるのはありがたいと言ってもらえたことはある。

委員：食べ物だけでしょうか。ほかにプロモーションしているところはあるか。

団体：農園を取り上げているが、食べ物以外もいいと思っている。今日ちょうど王様のランチで五香駅の大型犬のドッグカフェが取り上げられていて、そういったところも面白いと感じた。

委員：ほかのサイトだと BGM が入っているイメージで、入っていると良いなという個人的な感想。松戸の魅力的なもの面白いものということだが、こういった情報はどのような形で集めているか。

団体：情報の集め方については市と連携しつつ、メンバーはみな松戸に縁があるほか、1日調査する日を設けており、みんなで行ったことない道や場所を見て回って探している。

会長：市としてもうちちょっとここを掘り下げてほしい、あるいはこういったところに取り扱ってもらえてないから扱ってほしい、ほしくないところはあったか。

担当課：松戸のことについてももう少し話を聴いてほしい、店の声をもっと聴いてほしいということ、昨年度話をして改善されてきていると思っている。また、飲食店だけでなく、色々なところや市では気が付かないところを取り上げてほしいと思う。

会 長：若者目線で松戸市の魅力となる要素を拾っていくとより良くなると思う。チームワークを続けていってもらいたいと思う。

⑩事業名：松戸市町会 PR 動画制作事業（スタート助成）

団体名：できる街プロジェクト

委 員：アニメを見させていただき、なかなか面白い内容で頑張っていると感じた。今4話できているが最終的に第何話までつくることを考えているのか。また、松戸に関わりのある有名人に出てもらおうとのことだが、候補があれば教えてほしい。

団 体：全10話を考えている。継続出来たらもっと続けたい。先日、自治会長さんなどにお会いして話のできたので、実際に町会に入ったら何をやっているのか見に行こうという話を考えている。  
有名人は松戸にゆかりのある声優にでてもらうのが若い人にウケがいいと思う。あとは那須川天心さんとか。

会 長：視聴回数20,000件とのことだが、どのような端末を使って視聴されているかわかるか。

団 体：Twitterから直接視聴されている。Twitter上の動画再生回数となる。

会 長：質問の意図としては、PCから見たのか、スマホから見たのかで視聴する人の属性が憶測できるので、どういう人に目的を絞れるか計画建てができると思うが、現時点ではまだログ解析のようなことはできてないということか。

団 体：はい。

委 員：4話までみた。最初は絵柄と会話がマッチしていないと感じたが、回を追うごとにマッチしたように思う。町会の取材をしたということだが、今後のアニメは実写で行くのか。

団 体：取材したお二人の印象が似通っているので、人ではなく、架空の動物等や市のほかのキャラクターで充てる形ができないかなと考えている。個人的には松戸さんを入れたい。

会 長：これまでにない切り口、取り組みでやっている则皆さんも認識しているし、時間がかかるということも承知しているので、今回はどこまでがんばったのかを受け止める時間と認識している。

⑪事業名：松戸市ご当地アニメ制作事業（スタート助成）

団体名：超普通スタジオ

- 委員：松戸の面白いところをつなげていくという意味で、松戸のどんな場所を取材しているか。今度 21 世紀の森に行くとのことだが、歴史的視点を取り入れるところはあるか。
- 団体：昨年観光協会に話をしたが、昨年は大河で忙しかった。今年はできればと。
- 委員：意外と学生などは松戸の歴史を知らない。そのあたりをクローズアップしてほしい。
- 委員：このアニメは、どこから入れば視聴できるのか。
- 団体：検索で「マツド伝説」と調べてもらえれば。
- 委員：「まつどの魅力」など、もっと一般的でわかりやすい検索単語にしてもらいたい。また、一番先行しているのは柏だと思うが、柏のほうで反響のようなものがあつたか。
- 団体：2 年前に 1 クール千葉テレビで放送、柏駅のキャラクター作成、またふるさと納税の PR 動画などで活動をした。松戸市でも、駅など大きいところと活動することで、柏を超えられるようにしていきたい。
- 委員：アニメを作って動画の視聴回数で成果を計っていると思うが、究極は松戸の魅力を伝えていくことだと思う。貴団体はどのような着地点を設定し、そのためにどのような取り組みをしていくか考えはあるか。見るだけでは行動に結びつかないのでは。
- 団体：アニメ聖地マップというところにマツド伝説が出てくるようにしていきたい。また、まだ準備中だが、現在キャラの Vtuber モデルを作っている。

⑫事業名：冒険山開放に伴う見守り事業（スタート助成）

団体名：冒険山解放委員会

- 委員：コロナ禍で大変だったと思う。毎月行っている見守り活動の平均参加者、合計でもいいので教えてほしい。凧揚げの凧は団体が用意したのか。
- 団体：多いときで 11～2 名、少なくて 5 人くらい。スタッフは 5 名いるが、10 人くらい多いほう。凧は自分で持ってくる人も何人かはいた。大人が凧のない中でも 150 メートルくらい上げていて、凧がない中でも凧が上がるということを見せられてよかった。団体としても凧の用意はしていた。
- 委員：コロナ前の参加者はどのくらいか。
- 団体：3 倍くらい。親と一緒に参加するという形には手ごたえを感じた。
- 委員：子供たちの遊びの課題というものは、大人が用意して、遊ばせるというものが強い。これを子供主導のプログラムをつくっていくための工夫はしているか。
- 団体：ただ焼いた芋をあげるのでは意味がないので、松戸市のガールスカウトの人に教

わりながら高学年限定で火起こし体験をさせた。

委員：そういう活動が重要だと思うので、続けてほしい。

会長：人員体制について、1人増えたとあるが、どういう人が団体に加わってくれたのか。

団体：コロナが明けるとスタッフ不足が問題になると思う。どうやってスタッフを確保したか、という問いには、ほとんどがロコミ。積極性が足りなかったが、1人だったとしても子どもが大好きという人に入ってもらえたことは収穫であると考ええる。

⑬事業名：坂川水系自然環境向上事業（スタート助成）

団体名：坂川の花桃を愛する会

会長：この事業は3年くらいやっていると思うが、放流した稚魚はどこにいったのか。

団体：人工の川なので、自然の漁礁などが無く、どこに住んでいるかわからない。調べていないが、これだけ放流しているから少しは増えているだろう、という定性的な分析。

会長：稚魚が住み着いて生きていけるような、水草など環境づくりから始めるのはどうか。

団体：自分達でそれはできないが、国交省の多自然型川づくりというプロジェクトがあり、十数年行われている。その結果30年前はとても汚かったが、とてもきれいになった。我々は地道な活動を続けて、少しでも環境をよくしようと取り組んでいる。

委員：目下の課題は高齢化の進む花桃の状態維持とし、昨年は苗木を50本購入したとあるが、本来このような街路樹についてはどこの管轄なのか。

団体：花桃の管轄は国交省の財産だが、今は管理を松戸の河川清流課に委託されていて、私たちはそのお手伝いをしている。高齢化についても、私たちが決めかねることから、相談はしている。植え替えしたいが、手が出せない。会員が持っている私有地には苗木の移植をしている。

委員：関心を持ったのが、地域のカメラマンが坂川の写真を撮って、カレンダーにしているとのことだが、どこでもらえるのか。

団体：河川清流課や市民自治課など。50部くらい刷った。

委員：違う団体で何千部単位で刷っているところがある。せつかくなれば市民の手にも届きたいなと思った。

⑭事業名：プレママ教室事業（ステップアップ助成）

団体名：ぶぶぶママ大学

- 会 長：参加費 500 円が営利かということで却下になったとあるが、どこか。
- 団 体：スーパーとかコンビニ等で貼れなかった。
- 会 長：今時市民活動で参加費をとるのが営利だと勘違いをしている所が多いというのは嫌だなと思った。役所やサポートセンターが説いていかないと、こんなところで躓いてしまうはもったいないと思う。
- 委 員：昔は全国保険センター連合会が市町村の保健センターでプレママ教室を開催していた。最近では予算の関係でできていないため、民間でこのような活動を続けているということは称賛に値する。ぜひ続けていっていただきたい。
- 委 員：チラシの増刷をお願いしたい。子育て支援の助成金は市以外でもあるため、ぜひ活用して、松戸の方々に届けてほしい。
- 委 員：自分も子供を出産した時、プレママの時はとても不安で、こういう活動で支えていただけることはとてもありがたいので、これから出産を控えている人のため、頑張ってもらいたい。
- 委 員：ビジュアル講座の視聴回数が伸び縮みしているが、理由があるのか。
- 団 体：日曜日と金曜日は同じ内容を流している。また、単純に金曜日夜の視聴が少ない。
- 委 員：令和4年度の助成事業は断念したとあり、非常に残念。助成金の申請は断念されたようだが、活動は続けてほしい。
- 団 体：子育てラインを月2回載せられないというのが大きく、非常に大変だった。

⑮事業名：親子で安心、子ども達が楽しく育つ居場所づくり事業（ステップアップ助成）

団体名：なないろのもり

- 委 員：資金繰り大変そう。参加費はとっているのか。
- 団 体：ワークショップは材料費に関しては取っているが、参加費は無料。助成金から講師料を出している。
- 委 員：協賛金の集め方について、どうしているのか。
- 団 体：地域商店の方へ足繫く通って、イベントに出店してもらうなどして協賛してもらっている。
- 委 員：本来なら児童館があれば、もっと楽に場所を用意できる。市は施設の整備など、工夫するべき。
- 委 員：オンライン観覧とはどのようなものか。
- 団 体：昨年はワークショップをオンラインでも開催し、今年は舞台の観覧。またクリス

マズフェスティバルのチラシは子ども達の絵で作成されているが、使用する絵の投票をオンラインで行っている。

委員：コロナ禍で柔軟な対応をしているが、どのように対応しているか。

団体：親の意見などから意地でも実施する方向で進めるため、スタッフ4人が密に会って話し合い、市にも相談しながら対応している。

⑩事業名：松戸市民向け SDGs 普及啓発事業（スタート助成）

団体名：まつど地域活躍塾つながりの会

会長：ネットワーク形成について、自分たちがどこにいるのかを分けた表は、ほかの団体にとって気づきになったのではと思う。

委員：SDGs を普及することで何を指すのか、ということはこのテーマだと難しいと思うが、どうしても「SDGs」のためのSDGs 普及になってしまっていそうで、どういった所を指すのかという点をもう少しそのところを教えてほしい。

団体：これだけある目標のなかで我々は17番目の目標に該当しているとして、まず喚起から始めているというのが今回の活動。何を指す、というか、いろいろな目標、テーマがあるので、その中で何を指すかは決まっていない。

委員：庁内でもSDGsの活動はしている。市の活動を民間として体现している団体だと認識している。通常の団体さんは何か目的をもって活動しているが、そういうところを総括して、導く役割を担っているのかなと思うので、ぜひ広く普及活動を進めてほしい。市でも市政総合研究室などが中心になりながら活動しているので、何かあればいつでも声をかけてほしい。

団体：松戸市との情報交換は密に行っている。教育委員会とも。

委員：SDGs という言葉自体が漠然としていて、よくテレビとか出ているが、よくわからない。何にでも一括りにSDGs と言ってしまうと少し違うような気がする。

会長：市民の日常感覚にはまだ入り込めていない。団体目線では、活動領域ではなく課題でつながっていくというのは面白い。

⑪事業名：居場所提供と家出女性保護事業（スタート助成）

団体名：NPO 法人仮り暮らし

会長：昨年度の事業の中で、印象深い事案みたいなケースがあったか。また、危なかったことがあれば教えてほしい。

団体：年末くらいに、関わりのあった人が「4月〇〇日に死にます」というメッセージ

があり、そのことをかかりつけ医に連絡し、親、警察に連絡。その後保護した。  
1年間一緒に生活していく中で、拒食症を患っていたが、徐々に回復し、思い直し、一人暮らしできるまでなっている。危なかったことは特にない。

委員：県内でシェルターを開いている他団体との連携はどうしているのか。居住スペースの確保にかかる費用はどうしているか。

団体：他団体との連携に関しては、日常的に連絡は取っていないが、引き取れない事情がある場合は、子どもシェルターなど他団体に連絡を取る。費用に関しては、個人で借りている家に住まわせている形だから0円。計上をするために施設等受入評価益として計上をしている。

委員：自分の住んでいるところだから0円だと理解した。

委員：現代の駆け込み寺のような、命にかかわるような活動だと思う。シェルターへの滞在期間に規定はあるのか。シェルターは共同生活なのか。協働事業とかは考えているのか。

団体：入居期間は基本的に半年。どうしてもという理由がある場合は1年。シェルターでは職員も一緒に暮らしている。スタッフは本業があり多忙なため、協働事業は考えていない。

会長：警察などの公的機関との連携はとれているか。

団体：とれている。警察とは一昨年に関係があった。

⑱事業名：みんなで育て、みんなでつくる 沿道での食べられる景観事業（スタート助成）

団体名：エディブルウェイプロジェクトチーム

委員：すごくユニークで評価していますが、地域に密着した形で、生きたものに関わっていくことでコミュニケーションが活発になっていく。いいことばかりだと思うが、少し不安なのが、活動スタッフが大学生のため、スタッフの流動性というところが、継続していく上では不安要素ではないか。

団体：運営のほうに地域の方を入れて、メインになっている。学生は1人2人くらい。メインが地域に移行しているので、学生の流動という懸念点は薄れているのかなと思う。

会長：皆さんの団体は道草を食べることをいい意味で消化しているので、持続可能性を意識して、活動を続けていってほしいと思う。

会 長：総評

5 閉会

令和4年 5月 21日